

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
天理・大和高田・葛城地域	天理市、大和高田市、葛城市、山添村、三郷町、安堵町、川西町、三宅町、上牧町、広陵町、河合町	H24.4.1～H31.3.31	H24.4.1～H31.3.31

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成 26 年度)	目 標 (令和元年度) A	実 績 (令和元年度) B	実績 /目標	
排出量	事業系 総排出量	30,596t	27,275t	30,147t	13.8%
	1 事業所当たりの排出量	3.06t	2.70t	2.76t	83.1%
	生活系 1 人当たりの排出量	199kg/人	194kg/人	198kg/人	20.0%
	合 計 事業系生活系総排出量合計	99,636t	94,831t	96,600t	62.5%
再生利用量	直接資源化量	6,576t	6,957t	6,550t	28.6%
	総資源化量	17,685t	18,180t	16,280t	-53.8%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (令和 26 年度)	目 標 (令和元年度) A	実 績 (令和元年度) B	実績 /目標	
公共下水道	汚水衛生処理人口	59,287	61,244	59,280	-0.4%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	82.9%	87.5%	86.4%	76.1%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	7,733	4,230	5,444	65.3%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

<p>【ごみ処理】</p> <p>(1) 排出量</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業系ごみの総排出量について、達成できていない要因は、景気の回復等に伴って事業所数が約 600 増加するなど、事業活動の活発化などにより、発生量が増加しているためと考えられる。また、1 事業所当たりの排出量についても、事業活動の活発化に因るものと考えられる。 生活系ごみの一人あたりの排出量については、総排出量が目標を達成していることから、資源化量の実績が目標を達成していないことに因るものと考えられる。
--

(2) 再生利用量

・直接資源化量

ペットボトル、アルミ缶等の容器の軽量化や販売店回収の普及が進んでいることが考えられる。

・総資源化量

ペーパーレスによる紙資源の減少や、製品包装の省資源化などにより、総資源化量全体の約5割を占める紙類の排出量が約900t減少していることが主な要因として考えられる。また、その他の資源についても、スーパー等による店頭回収の普及が進んでいることが要因として考えられる。

【生活排水処理】

- ・公共下水道について、主な要因としては過疎化による人口の自然減が当初の見込みよりも進んでいることによるものである。
- ・未処理人口については、合併処理浄化槽への転換に係る啓発活動が効果的に行えなかったことが要因であるとする。また、補助をした合併浄化槽のみのデータしか把握していないため、残りが全て未処理人口となっていることも要因の一つである。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和6年度まで

【ごみ処理】

分別、資源化方法について引き続き検討していく。ごみ処理施設新設により、現状以上の分別や処理の効率化を行い、資源化量を増やす計画である。

【生活排水処理】

公共用水域の水質保全のため、浄化槽設置整備事業に係る効果的な普及啓発活動等の強化に努める。

(都道府県知事の所見)

【ごみ処理】

今後計画している新たな施設整備とともに、さらなるごみの減量・リサイクルの施策推進による当該地域における総合的な効果を期待したい。

【生活排水処理】

今後とも公共下水道や農業集落排水処理施設等の集合処理施設が整備されていない人口散在地域等で合併処理浄化槽等の整備事業を進め、公共用水域の水質保全・改善を進めていくことを期待する。